平成２５年度事業報告書

１　平成 25 年度事業の概要

平成 25 年度は，公益財団法人に移行して２年目であり，事業及び法人業務とも，公益目的事業の充実と認定継続のための取組みを進めた。

公益目的事業においては，地球温暖化対策，生物多様性の確保，良好な生活環境や地域交流，防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため，京都市緑の基本計画及び第１次京（みやこ）のみどり推進プラン等に基づく活動を推進した。都市緑化に関する講習会，自然に親しむ体験活動，希少種の保全に関するネットワークづくり，公園を生かした緑のイベントの開催，宝が池周辺の環境変化について考える学習会，庭園文化の情報発信等を実施した。

このうち指定管理事業は，梅小路公園においては，京都鉄道博物館の着工に伴う「ふれあい広場」の閉鎖・機能移転，及び新しい２つの広場等の再整備への対応に努め，宝が池公園子どもの楽園においては，特に平日の活動の事業の拡大に努めた。

法人業務に関しては，評議員会を１回，理事会を２回開催した。役員体制は，平成 25 年 3 月 28 日付で学識経験者の森本幸裕理事長が就任し，実質的に 25 年度から新たなスタートを切った。

財務に関しては，収益面で，自動販売機収入が減ったほか，公園管理区域面積の減少による受託収益の減少，補助金の減少等により，収入が大きく落ち込む厳しい状況であった。これに対し，費用面では，事業量が増える中で人件費の伸びを抑え，修繕費，委託費等の削減に努めた。また，公益法人に対する優遇税制を活用し，当期一般正味財産増減額はわずかながらプラスとなり，23 年度，24 年度に引き続き，黒字経営を保つことができた。

２　平成 25 年度の事業実施状況

※事業項目の「推進プラン事業」は京都市「第１次京（みやこ）のみどり推進プラン」の事業を指す。

Ⅰ　公益目的事業

Ⅰ－１　都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 155,243 千円　（予算額　151,467 千円）

うち京都市補助金　決算額 27,084 千円（予算額　27,084 千円）

京都の都市緑化の普及啓発，緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として，管理運営する公園等を拠点として，各地域において，講習会，イベント，広報その他様々な事業を行った。

(1)　緑の学校と人材育成　　＜推進プラン事業番号 46-1，51-1＞

緑化に関する各種の講習会を実施し，緑のボランティアリーダー（**(6) ウ関連**）を育成する「緑の学校」を運営した。

ア　園芸・造園関係の講習会等

a　園芸講習会

市民を対象として，園芸，造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

・講　師　協会花と緑の普及員　駒井修

・受講者　前期 43 人，後期 34 人　・参加者数 9 回計 319 人

・受講料　前期 4,000 円，後期 3,000 円

・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第１回	４月 18 日	ハンギングバスケットの寄植え
	第２回	５月 16 日	鉢植えの用土の使い方，一年草苗のポット上げ
	第３回	６月 20 日	観葉植物の育て方と繁殖
	第４回	7 月 18 日	草花の夏越しの方法と夏咲き草花の寄せ植え
	第５回	8 月　8 日	水生植物の育て方と容器への植え付け
後期	第１回	10 月 17 日	カラーリーフプランツの紹介と使い方
	第２回	11 月 21 日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植え
	第３回	12 月 19 日	クリスマス飾り（ミニリース）の寄せ植え
	第４回	1 月 16 日	冬季に行う土づくりと早春に咲く草花の寄せ植え

（24 年度は計 9 回実施。）

b　季節を楽しむ園芸教室

園芸で四季を楽しむ単発の教室・講習会・体験コーナーを開いた。

教室名	開催日	講　師	受講料	参加人数
ニホンサクラソウを育てよう	4 月 29 日	原田弘種（協会）	700 円	24 人
和花を使った寄せ植え教室	9 月 27 日	原田弘種（協会）	800 円	9 人
和花を使った寄せ植え体験コーナー（中京区民まつり）	10 月 27 日	協会普及啓発担当	400 円	9 人
苔玉づくり体験コーナー（下京ふれあい広場）	11 月 10 日	梅小路公園花と緑のサポーターの会	500 円	18 人
正月の寄せ植え教室	12 月 18 日	原田弘種（協会）	3,000 円	32 人
梅のミニ剪定講座（4 回）	3 月 2 日	野杁勝俊（協会）	無料	30 人
ラナンキュラスの寄せ植え教室	3 月 21 日	原田弘種（協会）	2,000 円	27 人

（24 年度は 5 回実施。）

c 出張園芸講習会等

まちなみ緑化支援（(5)ア）関連の普及活動として，又は行政，地域団体からの協力要請等により，出張して講習会等を実施した。

場所／テーマ	開催日	講　師	参加人数	備考
島原のぞみデイサービス（下京区）／夏花への植替え	5 月 23 日	寺田裕美子（協会，園芸療法士）	15 人	まちなみ緑化支援
菊浜連合会（下京区）／六軒橋・正面公園の緑化	6 月　27 日	駒井修（協会普及員）	25 人	まちなみ緑化支援

菊浜連合会（下京区）／軒下に飾るコンテナを含めた植え付け	11 月 20 日	駒井修（協会普及員）	22 人	まちなみ緑化支援
中京区グリーンカーテンづくり講習会（中京区役所）／ゴーヤの育て方・誘引方法	5 月 30 日	駒井修（協会普及員）	30 人	参加者は公募
上京区緑ののれん講習会（上京区役所仮庁舎）／植物栽培の改善点	12 月 7 日	駒井修（協会普及員）	9 人	緑ののれん実行委員会

（２４年度は５回実施）

イ　花壇づくり講習会

公共的な場所での花壇づくりを中心に，設計や植付け等のグループ作業を通じて，グループで行う緑化活動の基本をシリーズで学んだ。25 年度は，改修した花壇区画（七条入口広場）や人の動線誘導を兼ねて設置する大型コンテナ（プランター）を活用した１年草主体の「見せる花壇」のほか，自然風の宿根草花壇の植栽を学んだ。

・講　師　協会花と緑の普及員　駒井修

・受講者　前期 15 人，後期 11 人　・参加者数 10 回計 139 人

・受講料　前期 3,000 円，後期 2,000 円

・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第１回	5 月 21 日	一年草主体の花壇の形態・設計手順
	第２回	6 月 4 日	個人のデザインを基にグループで夏～秋花壇の設計
	第３回	6 月 18 日	夏～秋花壇の地ごしらえ・植えつけ
	第４回	7 月 2 日	自然風花壇の形態・設計手順
	第５回	7 月 23 日	個人のデザインを基にグループで秋花壇の設計
	第６回	9 月 18 日	秋花壇の地ごしらえ・植えつけ
後期	第１回	10 月 1 日	コンテナ花壇の形態・設計手順
	第２回	10 月 29 日	グループで冬花壇の設計
	第３回	11 月 19 日	冬花壇の地ごしらえ・植えつけ
	第４回	12 月 3 日	コンテナ花壇の冬花壇　／修了式

（24 年度は前期 5 回，後期 4 回シリーズを実施。）

ウ　家庭の庭づくり（ガーデニング）講習会

おもに家庭などでの身近なガーデニング（庭づくり）について，計画の立て方から造成，植栽，維持管理，庭での楽しみ方まで，講師との対話形式で学んだ。２つの期に同内容のシリーズを実施。このうちⅡ期は，Ⅰ期の内容をやや平易にして行った。

・講　師　協会花と緑の普及員　野杁勝俊

Ⅰ期　・受講者　15 人　・参加者数 6 回計 77 人　　・受講料　4,000 円

・各回の実施内容

回	開催日	実施内容
第１回	6 月 14 日	自分で造る家庭の庭づくり（観賞の庭・実用の庭）
第２回	6 月 28 日	庭づくりの構想とデザイン
第３回	7 月 12 日	庭の造成と植栽，修景植栽
第４回	7 月 26 日	庭の維持管理（Ⅰ）庭木の手入れ（剪定）等
第５回	8 月　9 日	庭の維持管理（Ⅱ）草花の手入れ等
第６回	8 月 23 日	庭での楽しみ方「ガーデンライフ」

Ⅱ期　・受講者　13 人　・参加者数 6 回計 66 人　　・受講料　3,000 円

・各回の実施内容

回	開催日	実施内容
第１回	11 月　8 日	家庭の庭づくり
第２回	11 月 22 日	自宅の庭を考える
第３回	12 月 13 日	造って植える
第４回	12 月 20 日	庭木の手入れ（剪定）
第５回	1 月 17 日	草花の手入れ
第６回	1 月 31 日	庭の楽しみ方

（24 年度は，年間で 6 回実施。）

エ　緑の散策ツアー　＜推進プラン事業番号 38-2＞

広報誌「京のみどり」に連載している特集記事との連動企画として，市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩く散策を通じ，緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりの取り組みを考える機会を提供した。第 1 回は健康ウォーキング指導も行った。第 3 回は特別編として，造園家を招き庭園を中心とした散策を行った。

・講師　植物，庭園，地域の歴史・文化に詳しい専門家等

・各回の実施内容

回	開催日	コース／講師	参加者数等
第 1 回	5 月 26 日	伏見区淀周辺（妙教寺，與杼（よど）神社，淀城跡公園，淀緑地，浜納屋（木田醤油）ほか）／駒井修・協会普及員，宮本彩・健康運動指導士等	21 人 参加費 500 円
第 2 回	11 月 17 日	右京区嵯峨水尾地区（柚子畑・円覚寺・清和天皇社・フジバカマ畑・柚子販売所ほか）／田端敬三・近畿大学農学部講師，松尾史弘・前自治会長	22 人 参加費 1,000 円
第 3 回	2 月 21 日	庭園散策（大徳寺本坊・孤篷庵・龍源院の各庭園）／吉田昌弘・ランドスケープコンサルタンツ協会顧問，小林正典・小林造園代表取締役	32 人 参加費 1,500 円

（24 年度は 2 回実施）

(2)　自然環境に関する講習会・体験活動

ア　体験型講習会，自然観察会等　　＜推進プラン事業番号 35-3，52-7＞

a　梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ，自然の仕組みを理解していただくことを目的として，ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会（森本幸裕代表）いのちの森モニタリンググループ，協会職員等。

①月例等定期の観察会

・参加料　無料（別途いのちの森入園料 200 円。グリーンフェア時は無料。）

・各回の実施内容（計 14 回・参加者計　228 人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4 月 20 日	植物の観察 1	10 月 5 日	グリーンフェア観察会
5 月　3 日	グリーンフェア観察会	10 月 19 日	植物の観察 4
5 月 18 日	植物の観察 2	11 月 16 日	植物の観察 5
6 月 15 日	きのこの観察	12 月 21 日	冬鳥の観察
7 月 20 日	昆虫の観察 1	1 月 18 日	越冬昆虫の観察 1
8 月 17 日	植物の観察 3	2 月 15 日	越冬昆虫の観察 2
9 月 21 日	昆虫の観察 2・こも巻き	3 月 15 日	植物の観察 6

（24 年度は 14 回実施。）

②子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会を 24 年度からシリーズ化して開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり，和花（フジバカマ）を見守り，飾る体験を通して自然に親しむ機会をつくった。（育てたフジバカマは「藤袴と和の花展」で展示。）

・講師　いのちの森モニタリンググループ（田端敬三・北川ちえこほか），小谷尚江（協会プレイパークリーダー）

・対象　小学生（一般公募，公園周辺小学校・児童館）

・受講料　500 円　（5 回分）

・各回の実施内容（参加者数　5 回計 76 人）

回	開催日	内　容
第１回	6 月 18 日	フジバカマの植えつけ・きのこの観察
第２回	7 月 20 日	昆虫の観察
第３回	9 月 21 日	鉢の絵付け・フジバカマ展示
第４回	10 月 19 日	フジバカマの切り戻し・種子の観察
第５回	11 月 16 日	紅葉する植物の観察・葉っぱアートづくり

（24 年度は 3 回実施。）

③ 団体向け観察会　（講師・協会普及啓発担当職員）

開催日	団体名	内　容	参加人数
7 月 12 日	梅小路小学校（1・2 年生）	公園内で「マイツリー」探しをするため 7 樹種を紹介	36 人
1 月 28 日	梅小路小学校（1・2 年生）	タネの観察と飛行実験	39 人

（24 年度は 4 回実施）

b　宝が池公園自然あそび教室

自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動（（7）ウ参照）とは別に，ゾーン

とその周辺の自然環境を生かし，子どもたちが遊びながら学べる教室を実施。自然素材を使ったクラフト，自然の仕組みを学ぶ遊びのほか，(公財) 京都市埋蔵文化財研究所の協力により，古くから自然と共生してきた地域の生活文化を学ぶ青年部職人 20 人参加教室等を開催。夏休み期間中には，特別プログラムとしてキャンプ等も実施した。

・開催日 原則第 1 第 3 土曜日　　・実施回数　計 28 回（24 年度は 25 回実施）

・のべ参加人数 552 人

イ　里山環境を考える学習会等

a　環境学習リーダー養成講座

体験型の環境学習の活動を支える人材（リーダー）を，子ども向けプログラムの実践を通じて養成する講座。25 年度は米国で開発された環境学習プログラム Project Learning Tree の指導者認定を受けることができるワークショップとして開催。

・共催　地球・環境共育事務所 Earth－PAL

・開催日　6 月 3 日　　・場所　子どもの楽園管理事務所管理棟等

・ファシリテーター　新堀春輔　・受講者　14 人　・受講料　8,000 円

b　宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに，ナラ枯れに加え，シカ害により次世代の植物が育たない危機的な状況にある身近な森の問題を，座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。

・参加費　500 円（5 回分）

・参加者　計 118 人

回	開催日	内　容／ 講 師
第１回	9 月 14 日	都市公園としての宝が池の森と生物多様性，昆虫の世界と森の姿・人とのつながり／田中和博（京都府立大大学院教授），齊藤準（京都工芸繊維大大学院准教授）
第２回	10 月 12 日	宝が池の森の特性が生きる森の管理，シカ害と野性生物管理／高柳敦（京都大大学院講師）
第３回	11 月 2 日	自然学習の大切さ・日本のくらしに息づく自然観，自然学習プログラム体験／菅井啓之（京都ノートルダム女子大教授）
第４回	12 月 8 日	身近な木々を使うくらしのあり方，宝が池の木々をどう活かす（バイオマス活用）
第５回	3 月 22 日	松ヶ崎城跡と遺跡の数々から地域をよみとく／吉崎伸（京都市埋蔵文化財研究所）

c　宝が池シンポジウム（第 2 回）～ツツジ色にそまる宝が池の森を未来へ～

シカ害等で急激に環境が変化している宝が池周辺の山を題材に森のあり方を考え，意見交換を行う場としてシンポジウムを開催した。協会からは，子どもの楽園周辺での環境学習・自然遊びの活動等を報告した。

・主催（共催）　緑化協会・京都府立大

・開催日　平成25年1月12日　　・場所　京都府立大6号館

・コーディネート　田中和博（京都府立大教授），野田奏栄（緑化協会宝が池プレイパーク世話人），森本幸裕（当協会理事長，京都学園大教授）
・話題提供　長島啓子（京都府立大助教），高柳敦（京都大学講師），齊藤準（京都工芸繊維大准教授），福井亘（京都府立大准教授）
・内容　（第1部）宝が池の森・京都の身近な森の今を見つめる（調査研究報告），（第2部）今私たちにできること（グループ討議）
・参加者数　約 80 人　　・参加費　無料

ウ　公園・庭園の樹木と対話する教室

梅小路公園内を歩きながら，樹木等の植物，公園・庭園の成り立ちについて解説する教室。植物の名前の由来，生活での利用方法，造園のコンセプトに基づいた景の見方まで季節に合わせて解説を行い，植物や緑の文化に親しんでいただいた。
・開催日　第１金曜日（１月を除く。）　　・実施回数　計 12 回
・講師　野杁勝俊（協会相談員・花と緑の普及員）
・受講者　計 140 人　・受講料　無料（庭園に入る場合は別途入園料。）
（24 年度は 10 回実施。）

(3)　緑の相談所運営

ア　相談業務

a みどりの相談

相談を通じて園芸等の知識を高め，緑化推進を図るため，平成 10 年度以降，無料の相談業務を行っている。平成 23 年度，相談所を本部事務所とともに円山公園内に移転したが，面談による相談者が大幅に減少したため，24 年度は，週 2 日の相談日のうち，1 日は梅小路公園緑の館で行い，25 年度は 2 日とも緑の館（仮設ブース）で行った。
・相談日　毎週２日（水曜日，土曜日）及びイベント等での出張相談
・時　間　午前 10 時～午後４時まで（面談又は電話による）
・相談員　原田弘種，野杁勝俊
・実　績　相談日数　99 日
　　相談件数（内容別）　879 件　（うち面談による相談 50.7%）
（平成 24 年度は相談日数 105 日，件数 824 件，うち面談による相談 39.7%）

b　相談所データベースの導入とホームページでの発信

相談データの蓄積，事務所分散に対応した情報管理の必要性から，相談記録を電子データ化し，記録の検索や集計等が簡易にできる相談所データベースを平成 23 年１月から運用し，一部はホームページで公開している。他団体からのこのデータベースのシステムに関する照会にも協力した。

イ　希少植物の保全・普及

市民団体，園芸家，京都放送（ＫＢＳ京都）等のご協力により，稀少な在来種を含む和花等の展示を梅小路公園で行ったが（（４）ア b 参照），協会も原種フジバカマ等希少種の育成・繁殖に取り組んだ。これらの活動を展示期間以外にも継続して進め，すそ野を広げていくため，25 年度は，（公財）国際花と緑の博覧会記念協会の平成 25 年度助

成金を受け，ネットワークづくり（和の花展懇談会）や冊子作り（（８）イ参照）等に取り組んだ。

・和の花展懇談会　実施状況

開催日	場所	内容	出席者
7 月 28 日	知恩院和順会館	・藤袴と和の花展の企画 ・今後の和の花の「輪」の展開等	出展協力団体・個人，連動企画関係等 18 名
2 月 22 日	協会円山事務所	・春の和の花展の企画 ・和の花冊子の活用方法等	出展協力団体・個人，企画・保全協力団体等 18 名

(4)　緑のイベントの開催及び支援

ア　みどりの月間，都市緑化月間等のイベントの開催，協力

みどりの月間（4～5 月），都市緑化月間（10 月）に，「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして，グリーンフェア春／秋，春の和の花展，藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

a　梅小路公園グリーンフェア 2013 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ，安らぎ，にぎわいを多くの市民に感じていただくために，春と秋の 2 回実施した。

開　催　日		天　候	来場者数
春	5 月　3 日（金・祝）	晴時々曇	23,000 人
	5 月　4 日（土・祝）	晴後曇一時雨	23,000 人
秋	10 月　5 日（土）	曇一時雨	33,000 人
	10 月　6 日（日）	晴	35,000 人
計			114,000 人

※　春・秋とも「京の朝市」と同時開催。秋は「市民ふれあいステージ」も同時開催。

b　春・秋の和の花展

梅小路公園朱雀の庭を会場に，自然保護団体や園芸家の協力により，絶滅危惧種を含む山野草，古典園芸植物等を屋外展示するとともに，イベントを行い，身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

①　春の和の花展（第 4 回）

・期間　4 月 20 日～から 5 月 6 日（15 日間）

・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約 180 種 250 鉢を展示

・イベント　お茶席，ガイドツアー，山野草展示即売会等

・入場者数　1,558 人

②　藤袴と和の花展（第 5 回）

（株）京都放送の「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成 21 年度から開催。京都府絶滅寸前種であるフジバカマ 220 鉢（約 1,100 株）のほか，京都府レッドリスト掲載の種を含めた山野草等約 155 種 394 鉢を展示。山野草等を多数展示した。

・主催（共催）　緑化協会・（株）京都放送

・期間　9 月 27 日から 10 月 6 日まで（9 日間）

・イベント　ＫＢＳ京都ラジオ「伊舞なおみのみんながメダリスト」公開生放送，香老舗松栄堂「水尾より届いた藤袴の香り」，渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナ

ー（ＢＶアサギマダラの会），山野草展示即売会，和花を使った寄せ植え教室，和の花展ガイドツアー，自生種キキョウ苗・藤袴の香りを楽しむしおりプレゼント等

・入場者数　2,120 人

＜連動企画＞　京都市，京都駅ビル開発株式会社，京都水族館との協力による PR

・京都駅ビル「緑水歩廊」での藤袴展示

藤袴 32 鉢（大原野由来，冷泉家由来）を「屋台プランター」付近（３階南遊歩道）に展示し，解説パネルを掲出（9 月 26 日～10 月 7 日）。アサギマダラが飛来。また，緑の館では緑水歩廊のパネル紹介を行った。

・京都駅北口広場でのポスター掲示

京都市が都市緑化月間に和風の竹の穂ハンギングバスケット・竹製プランターを設置した場所に，藤袴と和の花展のポスターを掲出した。

・京都水族館での藤袴展示

内水面の生態系を紹介する屋外の「棚田ゾーン」に，藤袴 3 鉢を展示・寄贈した。

c　桜まつり in 梅小路

25 年 4 月 6 日及び 7 日に梅小路公園をメイン会場に開かれた「第 9 回京都さくらよさこい」（同実行委員会主催，計 177 チーム）及び梅小路公園手づくり市との同時開催で，桜並木に紅白幕を張るなど，花見気分を演出した。

d　梅まつり in 梅小路

梅小路公園内にある梅林を PR するため，下京区役所と協力し開催。期間中，床几を置くなどして，ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

・期間　26 年 3 月 1 日～9 日

・イベント　梅茶振る舞い・おしるこ販売（3 月 1 日，603 人），梅の剪定教室（3 月 2 日）

e　京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第 29 回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計 523 点，170 人の応募があり，このうち 37 点が入賞・入選した。入賞・入選作品は，梅小路公園「緑の館」で展示された後，京エコロジーセンター，けいはんな記念公園，京都府庁など府内５か所で巡回展示された。

・主催　京都府都市計画協会主催

・共催：京都府，京都市，（公財）京都府公園公社，（公財）京都市都市緑化協会，（一社）京都府造園建設業協会

・表彰式　10 月 5 日（梅小路公園「緑の館」）

f　地域イベントへの参加

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展，または出展を支援し，園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場　所
堀川・桜まつり	4 月　7 日	堀川河川敷（一条戻橋～押小路橋）
中京区民ふれあいまつり	10 月 27 日	中京中学校グラウンド
下京区ふれ愛ひろば	11 月 10 日	梅小路公園

イ　「みどり」に関連した多彩な教室の開催

a　草木染めを使ったパッチワーク教室

梅小路公園の植物（ビワ，アイ等）を材料にした草木染めの布を使い，ウォールポット，バッグ，座布団を制作した。各期とも午前・午後に約 20 人ずつが受講。

・講師　池田由美子

・第１期　開催日　5 月 9 日，23 日，6 月 27 日，7 月 11 日，25 日（計 202 人）

・第２期　開催日　9 月 2 日，26 日，10 月 10 日，24 日，12 月 12 日（計 199 人）

・第３期　開催日　1 月 9 日，23 日，2 月 13 日，3 月 13 日，27 日（計 215 人）

・のべ実施回数　30 回（24 年度は 22 回）　・のべ参加者数 616 人

b　木登り体験会（ツリークライミング®体験会）

・指導　ツリークライミング®ジャパン

・開催日　雨天時，厳冬期を除く毎月 1 回（日曜日）及びグリーンフェア開催日

・実施回数 11 回（24 年度は 10 回）　・参加者数　のべ 111 人

c　梅の実採り体験

梅の実の盗難防止を兼ね，事前告知を行った上で，子どもを含め，梅の実採取を体験していただいた。

・協力　梅小路公園花と緑のサポーターの会

・開催日　6 月 11 日　・参加者数　200 人

(5)　まちなか（市街地）緑化事業

ア　和花等を生かしたまちなみ緑化　＜推進プラン事業番号 43-9＞

緑視率の向上と町並み修景を図るため，和のイメージを主体とするコンテナを街路沿いの狭いスペース等に設置，施設利用者や地域住民に管理していただき，協会が技術的支援等を行った。25 年度新規の実施個所は調整がつかなかった。

① 島原のぞみデイサービス敷地内（下京区西新屋敷中之町，23 年度からの継続）

「花矢来」4 基，竹の穂ハンギングバスケット 6 基，地植え花壇の植替え・管理指導 3 回。園芸療法士による花に親しむ講習会を 1 回実施　（(1)ア c 参照）

② 菊浜学区（下京区）「花回廊づくり」の支援（24 年度から継続）

六軒橋東詰，高瀬川正面公園（ハンギングバスケット，プランター計 35 基）の植え替え・管理指導のほか，25 年度は通りに面した家屋の軒下にプランター20 基を設置した。花に親しむ講習会を 2 回実施。　（(1)ア c 参照）

イ　御池通スポンサー花壇等の地域の緑化の推進

a　御池通スポンサー花壇維持管理業務等の受託

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）で，沿道の事業者・市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助，ニュース発行，ボランティア募集等の普及啓発を行う業務を受託した。（(6)ア a 参照）

・植替え 4 回，巡回管理 86 回

・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 7 回，アンケート調査 1 回

・講習会（デザイン検討，作業安全）開催 2 回　計 53 人参加

b　堀川せせらぎ第二公園・第三公園でのコスモス育成の支援

堀川と堀川通りを美しくする会（京都市街路樹サポーター）が花のある風景をつくろうと堀川通中央分離帯のせせらぎ第二及び第三公園（上京区）で試行的に行うコスモス育成のため，24 年度に続き播種作業に協力した。

(6)　緑の団体支援

ア　「京都みどりのサポーター協議会」の運営

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

・参加団体　梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表），中京・花とみどりの会（西村勇代表），ＮＰＯ法人地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会（飯井基彦理事長），小野芙蓉会（谷中登美行代表），京都みどりクラブ（久武公一代表）

・会長＝西村勇，副会長＝岩永忠正

a　御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

京都市御池通スポンサー花壇事業で，日常の手入れを担う沿道の事業所等の「サポーター」の活動を補助・支援（点検，整姿，病害虫防除等）した。

b　地域イベントへの出展（（４）アｆ　参照）

c　研修　全国都市緑化とっとりフェア見学（鳥取市）　10 月 19 日　48 人参加

イ　緑の活動団体登録制度（ボランティアセンター）の準備

ボランティアベースの緑の活動団体の人材，ニーズに関する情報交換を行い，技術支援や協働の取組みを推進するためのボランティアセンターは，梅小路公園休憩所を改装し設置する計画であったが 25 年度の公園再整備の区域内となり場所を再検討することとなった。情報収集は引き続き行い，試行的に相談や余剰資材提供等を行った。

ウ　緑の学校の運営と緑化リーダーの認定

前項イの団体登録制度と合わせ，協働の取組みや支援の効果を高めるため，「緑の学校」のカリキュラムを２年以内に修了した人（(1) ア参照）等を緑化リーダーとして認定する。25 年度中のリーダー資格修了者数は 2 人（24 年度 1 人）。

(7)　公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア　梅小路公園指定管理業務等の受託

京都水族館開業（24 年 3 月），新広場等の再整備（25 年 3 月 8 日開園），及び 28 年春に予定される京都鉄道博物館の開業への対応として，京都市，当協会とオリックス不動産，（一財）京都市都市整備公社，再整備エリアの事業者（パークカフェ，市電ショップ・市電カフェ），ＪＲ西日本等の関係団体と協議し，利用者の利便性向上及び安全確保，清掃活動の強化に努めた。各種イベントや梅小路公園だよりの発行等による利用促進を図った。

また，公園再整備のため指定管理区域外となったふれあい広場（閉鎖前），七条入口広場，開園後の再整備エリアは，指定管理区域と一体として管理するための維持管理業務を受託した。

a　各種展示会，イベントの誘致開催

・梅小路公園の持込みイベント（例）

開催日	誘致・共催・協力イベント
第１土曜日	梅小路手づくり市（5 月，1 月を除く。）　※協会との共催事業。
5 月 12 日	ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク（京都府レクリエーション協会との共催）
5 月 19 日	京都軽音楽連盟スプリングコンサート
5 月 26 日	下京区民グラウンドゴルフ大会（参加者が芝生広場芝刈りを事前実施。）
6 月 9 日	第 10 回カフェカブパーティーＩＮ京都
9 月 7 日,8 日	京都市立芸術大学　学外展示会
9 月 14 日	第 17 回梅小路公ふれあいコンサート
9 月 29 日	レベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
9 月 22 日	京都音楽博覧会（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
10 月 5 日,6 日	京都文化祭典　市民ふれあいステージ
10 月 12～14 日	京野菜キャンペーン九条ねぎフェスティバル（京都府等）
10 月 26 日	京都やんちゃフェスタ 2013
11 月 10 日	下京区ふれ愛ひろば
12 月 1 日	京炎！そでふれ！祭

イ　宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

多様な事業の充実に努めた結果，駐車場利用は 24 年度比２．９％増となった。

また，親水施設の小まめな清掃，プレイパークゾーン法面の侵食やナラ枯れ被害木の監視，健康被害を及ぼす恐れがある特定外来生物セアカゴケグモの点検・駆除等，子どもや家族連れが安全・安心に過ごせるよう，管理を行った。

ウ　プレイパーク事業

a　梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し，毎月２回，定例の活動を実施した。夏休み夜間の「肝だめし」，正月遊びなど季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

・活動日　第２・第４土曜日
・実施回数　定例活動，特別企画及びやんちゃフェスタ等での実施　計 27 回
　（24 年度は 25 回）
・参加者数（子ども・保護者）　計 4,390 人
・あそびのリーダー数　計 269 人

b　梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊びやものづくり体験等を行い，公園を「居場所」として感じていただくことや，自然に親しみを感じていただくための「ミニ・プレイパーク」を行った。

・活動日　原則火曜日午前または金曜日放課後
・実施回数　　16 回　（24 年度は 22 回）
・参加者数　のべ 600 人

c　宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

子どもの楽園におけるプレイパーク事業は，22 年度までは受託事業であったが，23 年度より自主事業として実施している。季節にちなんだ遊びも行った。

① 通常プレイパーク（自然あそび教室除く）　42 回（24 年度 44 回）
・活動日　日曜
・参加者数　のべ 8,291 人

② 特別イベント
・4 月 26 日～5 月 6 日　こいのぼり掲揚
・5 月　5 日　ちびっこまつり
・5 月 26 日　大鬼ごっこ　100 人
・6 月　2 日　親水空間オープニング企画・ふね作ってうかばせよう　80 組
・6 月 29，30 日　七夕イベント（短冊飾り付け）　400 組
・10 月 6 日　昭和 DAY～3 世代交流イベント～
・10 月 14 日　大鬼ごっこ　100 人
・11 月 10 日　左京子どもふれあいカーニバル（左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催）1,500 人
・11 月 24 日　どんぐりまつり（遊びのコーナー全体）2,500 人

③ けむんぱクラブ（宝が池ミニプレイパーク）
平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に，森の散歩やもの作り等を通じて，親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。
・開催日　毎月第 2 火曜日，第 2 金曜日（2 クラス）
・実施回数　計 22 回　参加者数 330 人

④ おむすびミーティングの実施
7 月 7 日，門川市長がプレイパークゾーンを訪問し，スタッフや保護者の方々とともに，子どもたちが自然と関わることの大切さ，現在の子どもを取り巻く様々な課題，宝が池周辺の森林環境等をテーマに，熱心に意見交換を行った。
・出席者　門川市長，プレイパークコーディネーター3 名（当協会），プレイリーダー6 名（ボランティアスタッフ），幼児と保護者 2 組（幼児対象「けむんぱクラブ」の参加者）

エ　公園ボランティアの運営，連携，支援　　＜推進プラン事業番号 52-7＞

a　ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営
平成 19 年以降，週２回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか，講習会の運営補助，公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。この功績が認められ，10 月 5 日，平成 25 年度「京都市都市緑化推進功労者」の表彰を受けたことにより，さらに意欲が高まり活発となっている。
・会員数　平成 25 年度末現在 51 人
・実績　活動回数 132 回，参加人数のべ 1，310 人
・他団体との交流
下京ひかり児童館（保育幼児等）との七条中央花壇の植え付け作業，白河綜合支援学校の社会体験受け入れ，兵庫県加古川市ボランティア団体「日岡公園 日岡花くら

ぶ」の訪問受け入れ・交流会

・「葵プロジェクト」への協力（上賀茂神社境内）

フタバアオイを育成保全する畑周辺の落葉を堆肥化するため，落ち葉回収に協力(5月 11 日，11 月 30 日)。

b　梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

通称「セラピーガーデン」は車イスの方も利用できるレイズドベッドを設置するなどバリアフリーに配慮して協会が改修した施設であり，身体障がい者を含むボランティアが手入れ活動を行っている。また，25 年度は，年間を通じひきこもり青年の社会体験の受け入れを行った。

・指導　園芸療法士（米国ＨＴＲ）寺田裕美子氏

・活動日　第 2・第 4 木曜日　　計 22 回　のべ 153 人参加（ボランティア及びひきこもり青年）

c　社会体験活動の受入れ

市立白河総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れた。

・期間　11 月 6～8 人（5 人）12～14 日（6 人）／1 月 23～24 人（3 人）

・内容　花壇管理（サポーターの会，引きこもり青年との共同作業），樹名板づくり，貸室清掃，ベンチのペンキ塗り等

オ　青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室）　＜推進プラン事業番号 18-3＞

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして，梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催。前年度からの参加する方々の積極的な協力や口コミで常に新規参加があり，人気が継続している。25 年度は参加者の体力に合わせ2コースに分けて実施。公園の魅力を伝える公園ツアー(計3回)も行った。

・講師　健康運動指導士　宮本彩氏

・内容　ストレッチ，簡易体力測定，正しい歩き方指導，筋トレ，脳トレ等

・季節ごとのテーマ

春	4～6 月	身体をしなやかに，軽やかに動かそう～ストレッチ～
夏	7～9 月	身体の土台となる筋肉を鍛えよう～筋力トレーニング～
秋	10～12 月	じっくり，しっかり，楽しく歩こう～有酸素運動～
冬	1～3 月	巧みな身体の動きを身につけよう～コーディネーショントレーニング～

・参加料　無料

・開催日　第 2・第 4 火曜日　　計 23 回　のべ 1,027 人参加

（24 年度は 24 回実施。）

カ　円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設の安全確認，樹木の枯損等の確認，サクラ開花や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応，案内を行う業務を京都市から受託して実施した。

(8)　広報・出版

ア　京のみどり（季刊）の発行

市内各地の緑に親しんで歩いていただくためのウォーキングマップや緑を守り育てる地域・団体の取組みを紹介する特集を継続して掲載しているほか，まちなみ緑化，園芸相談，プレイパーク等の協会事業，京都市の施策等の情報を紹介。

・各号の特集「歩いて感じよう京のみどり」の概要

第 67 号（夏号） 25 年 7 月発行	「水の流れに歴史を感じて　山科疏水周辺のみどりを歩く」（山科区：東山自然緑地，諸羽神社，瑞光院，毘沙門堂，天智天皇陵，琵琶湖疏水を語る部屋等）
第 68 号（秋号） 25 年 10 月発行	「時を越えて大地に根ざす　京北・黒田のみどりを歩く」（右京区京北町：黒田周辺，方波川源流域，伏状台杉群生地,）
第 69 号（冬号） 25 年 12 月発行	「まちの玄関口から広がる･繋がる　京都駅周辺のみどりを歩く」(下京区・南区：正行院，ひかり公園，北川河原公園，春日公園，戒光寺公園，道祖神社，京都駅ビル緑水歩廊等)
第 70 号（春号） 26 年 3 月発行	「移りゆく街　変わらぬ魅力　岡崎・鹿ケ谷のみどりを歩く」（左京区：岡崎公園，熊野若王子神社，平安神宮，満足稲荷神社，神宮道商店街等）

・部数 7,000 部

・配布場所・配布先　市政案内所，区役所・支所，市立図書館，公園愛護協力会，全国の緑化団体等

イ 「和の花」保全に関する小冊子の発行

京都の生活文化と密接な関係があり,かつては人々の身近にあったが近年急に失われてきた和の花を取り上げ，それぞれの特徴や栽培方法を伝える小冊子の第１集「和の花を育てる１」を 26 年 3 月に発行した。

・内容　エイザンスミレ，オケラ，フジバカマ，フタバアオイの４種を紹介。人々が薬用，食用等として利用したり，祭事，文学や芸術の題材としてきた植物に関する知恵，栽培方法などを解説。関心のある団体に相互協力を呼び掛ける際や，和の花の保全・育成に関する講習会等で配布する。

・(公財）国際花と緑の博覧会記念協会の平成 25 年度助成金（500 千円）を活用。

・体裁　　A5版，32ページ，全ページカラー

・発行部数　1,000部

ウ　ホームページ，スマートフォンサイトの運営

協会ホームページは,タイムリーなイベントや京都の緑の文化の情報提供等に努めているが，梅小路公園利用者向けスマートフォンサイト（25 年 3 月開設）の運営に加え，特に梅小路公園の新広場オープンに関するニーズの高さから，25 年度の年間アクセス数は過去最高となった。

・アクセス件数（Visits）559,820 件　（前年度比 31.7%増）

（24 年度は 425,228 件）

※Vists（訪問者数）　30 分以内の同一 IP をカウントしない実質のアクセス数の指標。

「京のみどり」のコンテンツをスマートフォンで紹介する「京のみどり検定(仮称)」サイトの制作については，海外向けを含めた庭園情報発信の一環として再検討する

こととした。（Ⅰ－２イ参照）

エ　公園樹管理士認定研修への協力

公園樹管理の技術･技能の向上を目的として，一般社団法人京都府造園建設業協会（府造協＝当時）が平成 24 年度に創設した「公園樹管理士制度」による認定研修会について，テキスト「公園樹管理ハンドブック」（府造協発行，当協会編集協力）に基づく講義及び都市公園を事例とした演習の講師派遣等の協力を行った。

・期日　25 年 1 月 25 日　　・場所　京都工業会館（右京区）
・講師　吉田昌弘（ランドスケープコンサルタンツ協会顧問），藤井俊志（協会専務理事）
・参加者　街路樹選定士（日本造園建設業協会認定）27 人

(9)　調査・情報収集

ア　森林バイオマス利用の調査・情報収集（緑のプラットフォーム事業）

間伐材を利用した製品を普及し，その収益を森林保全・再生につなげる仕組みづくりのため，造園業界へのＰＲや意向聞き取りを行った。

イ　植生調査等　　＜推進プラン事業番号 52-7＞

樹林の改善等適切な管理及び情報発信の基礎資料とするため，京都ビオトープ研究会による梅小路公園いのちの森のモニタリング活動（第 10 回京都環境賞受賞）への協力を行った。いのちの森植生は，里山問題と同じ，推移をたどりナラ枯れ被害も生じており，抜本的な解決策の検討に着手した。また，宝が池公園子どもの楽園周辺では，京都府立大学等と協力し，ナラ枯れ被害集中箇所の推移や，シカ食害の影響等の観察を行っている。

Ⅰ－２　京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額　25,061 千円　（予算額　22,733 千円）
うち京都市補助金　決算額　0 千円（予算額　0 千円）

京都の庭園の保全管理，庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として，庭園の保全管理業務，その中での庭園講座等への活用，及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア　梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い，伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について，管理保全指針に基づき，複数年契約による計画的な景観づくりに努めるとともに，新しい庭園の活用策としてイベント等を行った。

・紅葉まつり

ライトアップした梅小路公園朱雀の庭を延長開園した。今年度は期間中，京都水族館も夜間営業を実施し，水族館と朱雀の庭をつなぐ園路に灯籠を設置するなど連携を図った。（ 24 年度 1,935 人。）

・期　間　11 月 22 日～24 日

・内　容　「朱雀の庭」のライトアップ，延長開園，おしるこ無料配布・販売等
・庭園入園者数　2,078 人

イ　庭園情報の収集・発信　　＜推進プラン事業番号 37-2＞

京都の優れた庭園の情報を収集し，ホームページ・広報誌「京のみどり」(4 件の追加)等において実際に訪れていただくための発信を行った。

また，京都の日本庭園の文化と技術を国内外へ広く発信する「京都発・日本庭園の文化と技術を世界へ発信」事業の準備委員会を 11 月 21 日に開催し，各関係団体等と調整した後，2 月から企画委員会を立ち上げ，庭園案内コースの検討や庭園文化発信のためのウェブサイト等を検討した。

・準備委員会　顧問　森本幸裕（当協会理事長），モンテ・カセム（ＮＰＯ法人京都・地球みらい機構理事長）委員　尼崎博正（京都造形芸術大学教授），井上剛宏（京都府造園協同組合理事長），佐野晋一（(一社）京都府造園建設業協会会長），宮前保子（(公財）花と緑の博覧会記念協会専務理事），吉田昌弘（(一社）ランドスケープコンサルタンツ協会顧問），後藤典生（圓徳院閑栖住職），岡本圭志（京都府商工労働観光部副部長），山本達夫（京都市産業観光局商工部長），大西功（京都市建設局水と緑環境部長）

・企画員会　京都府造園協同組合及び（一社）京都府造園建設業協会から派遣された造園家 5 名で構成。

ウ　庭園文化講座等　　＜推進プラン事業番号 37-2＞

a　庭園文化講座

日本庭園に関連する「緑の文化」，伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に，庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。25 年度は，造園家によるものを含め庭園見学・解説を３回盛り込んだ。

・受講料 6,000 円　　・受講者　のべ 76 人

・各回の実施内容

回	開催日	内　容	講　師
第 1 回	6 月 29 日	日本庭園の歴史	吉田昌弘（ランドスケープコンサルタンツ協会顧問）
第 2 回	7 月 13 日	庭園見学（白沙村荘，銀閣寺）	吉田昌弘
第 3 回	7 月 27 日	京都の庭園	井上剛宏（造園家・京都府造園協同組合理事長）
第 4 回	8 月 10 日	京都における庭づくり・庭守り（高台寺等現地研修）	北山安夫（造園家・京都府造園協同組合副理事長）
第 5 回	8 月 24 日	日本庭園のデザイン手法	吉田昌弘
第 6 回	9 月　7 日	庭園見学（天龍寺・大河内山荘）	吉田昌弘

（※24 年度は 2 期で計 13 回実施。）

b　ガイドボランティア講座

庭園文化講座の受講者及び公園で継続的に活動するボランティア団体のうち希望者

を対象に，朱雀の庭・いのちの森のガイドボランティアを養成する講座を実施した。修了者に対しては次年度にガイドの実地練習を行う。

・78 人　　・講師　吉田昌弘（ランドスケープコンサルタンツ協会顧問），協会職員

・内容　朱雀の庭・いのちの森の設計，解説ポイント，話し方研修

エ　日本庭園の伝統的技術・技能研修　　＜推進プラン事業番号 36-1＞

若手造園技術者を対象に，京都府造園協同組合青年部（北山利通部長）との共催により，講義，実習，見学会から成る**伝統的技術・技能の研修を行った。**

a　**作庭研修会**　青年部職人 20 人参加

石積みをテーマに構想・計画，材料選びから，施工まで学ぶ作庭研修会を開催した。梅小路公園での実習は，制作の過程を市民に公開し，庭園文化の普及啓発としてもながら行った。

・実習事前講習会（野面石積みの方法）2 月 1 日　場所：同組合（右京区）
　講師　小島俊夫（小島庭園工務所専務取締役）

・さざれ石による石積みの実技講習会　2 月 9 日　場所：梅小路公園中央池そば
　講師　斉藤正信（斉藤造園代表取締役社長）

b　**見学研修会**　2 月 26 日　　青年部職人 18 人参加

京都を代表する造園家が自ら設計又は作庭した庭園を解説した。

・一様院庭園（北区）（駒井隆雄講師），

・比叡山延暦寺，北山モノリス庭園（左京区）（久保義信講師）

オ　青島世界園芸博覧会への技術支援及び情報発信　　＜推進プラン事業番号 37-2＞

京都市のパートナーシティである中国山東省青島市の青島百果山森林公園で平成 26 年 4 月～10 月に開かれる 2014 青島世界園芸博覧会のテーマ区「国際園」に，日本から京都市及び山口県下関市の２市が出展する。京都市は「日本京都園」（武田純氏設計）を造園３団体及び当協会との協力で出展する。施工を行う青島市当局を技術的に支援するため，京都市（緑政課，国際化推進室），京都府造園協同組合，（一社）京都府造園建設業協会，京都市造園建設業協会，及び当協会が「2014 青島世界園芸博覧会京都市技術支援委員会」（井上剛宏委員長，事務局・当協会）を設置し，岡本耕藏派遣団長（現場監督）など造園技術者の派遣を行い，材料調達や施工の指導，石組等の共同作業を行った。また，京都市国際化推進室が博覧会開催期間中に行う予定の庭園文化等の情報発信に協力し，資料提供等を行った。

・25 年度派遣人数　のべ 62 人・日

Ⅱ　公園収益事業

決算額 72,126 千円　（予算額　66,470 千円）
うち京都市補助金　決算額　０円（予算額　０円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販売事業，国立京都迎賓館庭園の保全管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア　自動販売機飲料販売事業

公園便益施設として，指定管理受託している２公園のほか市内２０公園に計５５台の自動販売機を設置し，その全収益を公益目的事業に活用した。

イ　梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

京都市からの受託事業。遊戯用電車（チンチン電車）は，京都鉄道博物館建設用地となる「ふれあい広場」の閉鎖（25 年 11 月）に伴い，25 年 9 月末をもって運休し，再整備エリアに移転して 26 年 3 月 8 日に運行（乗車料は京都市収入。）を再開した。広軌 1 型車両を静態展示する新設の市電展示室の管理も合わせて行うこととなった。

ウ　宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

良好な管理，イベントの充実により，利用実績は 24 年度を上回った。

エ　国立京都迎賓館庭園維持管理事業

内閣府からの受託事業であり，京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，管理保全指針に基づき，造園に携わった造園業者とともに，計画的な景観づくりに努めた。

・人材育成研修への活用　計 5 回 132 人

造園技術者（京都府造園職業訓練校，京都府造園協同組合青年部）の刈込み・剪定研修，及び造園系大学学生の池清掃のボランティア作業（京都造形芸術大学，岐阜県立国際園芸アカデミー，東京農業大学）

・平成 25 年度京都迎賓館庭園会議

開催日　7 月 5 日　　場　所　迎賓館京都事務所会議室

議　題　庭園管理状況（樹木生育状況等）について　他

出席者　尼﨑博正（京都造形芸術大教授），佐野藤右衛門（作庭棟梁），井上剛宏（作庭副棟梁），日建設計，内閣府京都迎賓館，（一財）建築保全センター

事務局　緑化協会

オ　緑のプラットフォーム事業

京都産木材の需要の拡大及び京都三山の景観を含む京都の森林保全並びに都市緑化の推進のため，タカラ物流システム株式会社（京田辺市）との間で，同社が販売する「木質舗装材ブロック森のれんが」等の普及について情報を提供し，同社との覚書（25 年 3 月）に基づき，協力金（41 千円）を受け取り，公益的な事業に活用した。

Ⅲ　法人業務

決算額 8,290 千円　（予算額　14,164 千円）

うち京都市補助金　決算額　0 円（予算額　0 円）

(1) 理事会・評議員会

役員体制は，平成 25 年 3 月 28 日付で学識経験者の森本幸裕理事長が就任し，実質的に 25 年度から新たな体制がスタートした。また，旧法人創立以来，継続して理事を務めていた松尾義平理事が平成 26 年 3 月 31 日付で退任した。

下表のとおり理事会は２回，評議員会は１回開催した。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第５回理事会	25 年 5 月 29 日	平成 24 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第６回理事会	26 年 3 月 12 日	平成 26 年度事業計画及び収支予算の件 資金運用規定の執行方針及び計画案の件 退職手当支給規程一部改正の件 経理規程一部改正の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第３回評議員会	25 年 6 月 14 日	平成 24 年度事業報告及び収支予算の件 理事選任の件 評議員選任の件

⑵ 新たな会計・税務対応

公益目的事業の収支相償の原則，公益目的事業比率の確保等を遵守し，税制優遇措置を活かしながら各事業を執行するとともに，京都市補助金に過度に依存しない自立的な法人を目指して，公益認定法人としての会計・税務対応に努めた。

特に，25 年度は各事業収入，補助金収入が大きく落ち込む厳しい状況であったが，当協会は公益目的事業比率が７割近くと高いため，優遇税制である「みなし寄付」（収益事業収益の公益目的事業への繰出）の制度を活かすことにより，当期一般正味財産増減額はわずかながらプラスとなり，23 年度，24 年度に引き続き，黒字経営を保つことができた。

⑶ 効率的な業務の遂行

平成２３年度から，本部事務所の移転，新たな指定管理業務の受託により３事務所体制となったが，効率性の確保のため，各事務所の自立的な運営を行うとともに，所属長会・各種企画会議等の開催による情報共有，事務所間の応援体制により，事業を推進した。

⑷ 京都府立入検査，京都市監査への対応及びコンプライアンス推進

公益法人移行後初めて，主務官庁である京都府（都市計画課及び政策法務課）による新制度立入検査が 25 年 11 月 25 日に行われた。結果は概ね適正であったが，公益認定申請にかかる提出書類の不備について補正を求められ是正した。

また，京都市監査事務局による監査（出資団体監査，財政援助団体監査及び公の施設の指定管理者監査）が平成 26 年 1 月 20 日から 2 月 6 日まで行われた。結果は概ね適正であったが，補助金会計事務，契約事務，領収証の扱い，貸与物品の管理等に関する指摘を受け，経理規程の見直しを含む是正を図った。

事務事業全般におけるコンプライアンス（法令遵守）の取組みについては，近年，京都市及び市外郭団体の職員の不祥事が相次いだことから，25 年 11 月，京都市コンプライア

ンス推進室より，各団体に対し25年度内に総合的な指針策定等の対策を急ぐよう強い要請があった。当協会は，全職員ヒアリングを通じてコンプライアンスの徹底を図るとともに，幅広い市民，公園利用者のための事業を行う公益法人として職員が確認すべきコンプライアンス推進の内容を示すことを目的として，従来の職員倫理の保持に関する規程，懲戒処分に関する指針等を総合し，職員コンプライアンス推進指針を26年3月に策定した。

(5) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上

各事業で効率的な運営，最大限の顧客満足度の向上を図ることができる職員を養成するため，各分野の外部研修を行った。

・派遣回数のべ15回　派遣人数のべ33人（京都市基本理念，普通救命救急，遊具点検，植栽基盤診断（長谷川式土壌貫入計），公益法人会計事務，公園管理実務者会議，全国及び関西花と緑の相談所連絡会議，コンプライアンス推進等）

（平成24年度は派遣回数のべ8回，派遣人数のべ13人）

事業報告の附属明細書について

平成２５年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので，作成しない。